

文部科学省認可通信教育  
(第4種 定形外郵便)  
令和5年1月発行

放送大学滋賀学習センター

# 樹 滴

緑豊かな環境

真理のしあたり

第126号



滋賀学習センター  
Facebook



滋賀学習センター  
ウェブサイト

〒520-2123

滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

龍谷大学瀬田キャンパス4号館1階

TEL.077-545-0362

FAX.077-545-2096

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/shiga/>

## 目 次

「ケニア：長距離ランナー強さの背景を探ると」(滋賀学習センター所長 平井 肇) .....	1
「生命感のあふれる遊び」(滋賀学習センター客員准教授 川中 大輔) .....	2
公開講演会、かいつぶり文化祭 .....	3
滋賀県立図書館と放送大学滋賀学習センターの連携・協力に関する覚書 .....	4
セミナーのご案内 .....	5
事務室からのお知らせ .....	7



# ケニア：長距離ランナー強さの背景を探ると

滋賀学習センター所長 平井 肇

滋賀学習センターでは、客員教員と所長がそれぞれ月に1・2回セミナーを開いており、私は『スポーツ文化論』というセミナーを担当しています。10月と11月はケニアの長距離ランナーの強さをテーマに取り上げました。10月は関連するテレビ番組の録画を視聴し、新聞の関連記事を読みました。11月はこの「強さの秘密」について話し合いました。今回は、その時に話題になったことを少し紹介します。

その前に、いかにケニアが優秀な長距離走者を輩出してきたのかを数字で見ておきましょう。マラソンの世界十傑のうち男子では7名が、女子では5名がケニア人で、世界最高記録保持者は男女ともケニア人です(2022年10月現在)。ちなみに、十傑の残りは男女ともエチオピア人で、この2国の独占です。2021年のマラソンの世界十傑を見ると、男子は6名が、女子は5名がケニア人です。その他にも、1万メートルや5千メートルでも、ケニア人が多数上位を占めています。

ここで、セミナー参加者のケニアの強さの秘密についての発言を一部紹介します。

まず最初に、アフリカでも高地のため比較的涼しく、しかも起伏の激しい場所で生活しトレーニングを積んでいるので、心肺機能が高まって長距離を走るのに好都合だとの意見が出ました。赤土のどぼこしたところを走るので足腰の筋肉も鍛えられて体幹も強くなり、理想的な走りの姿勢を身につけているのではないかと指摘もありました。

走ることが貧困からの脱出、すなわち、走ることによって生計を立てたり教育の機会を得ることができることも関係しているのではとの発言もありました。自分の住む場所や通う学校、出身部族からヒーローやヒロインが出るので、それが目標となって長距離ランナーを目指す若者が増えるのではないかという発言もありました。他にも、炭水化物中心の食事や、砂糖がたっぷり入った紅茶を何杯も飲むことに注目した人もいました。

このセミナーはスポーツ好きの学生が多いので、発言はケニアの長距離ランナーのことにとどまらず、いろいろな興味深い発言がありました。そのいくつかを紹介すると、「1964年東京五輪マラソンの金メダリストのアベベ(エチオピア)は、ヨーロッパの指導者から科学的トレーニングを受けたことが契機となり強くなった」、「メキシコも高地トレーニングの場所として有名だが、この国出身の優秀な長距離ランナーがいないのは不思議だ」、「駅伝が国際的になってEKIDENになったら素晴らしいのに、なぜ世界で普及しないのか」等の発言が出て、おおいに盛り上がりました。

私は授業で、このケニアの長距離ランナーの強さの秘密について取り上げるときに、学生に「自然環境」、「社会環境」、「経済環境」、「身体特性」、「その他の要因」といった具合にカテゴリーごとに分けて考えてもらうようにしています。そうすると、学生は私が指摘したかかったことと同じようなことを項目ごとに、原因を挙げてくれます。いわゆる専門家がいろいろと指摘していることが、ほぼ網羅されています。

でも、考察はそこで終わりではありません。私は、これらの要因の相互の関連性に注目してほしいとも言っています。どれかひとつの要素だけが原因ではないのは明らかで、いくつもの要素が複雑に絡み合っ、社会の現象や人々の行動に結びついていることに気づいてほしいのです。

時代とともにケニアの長距離陸上界を取り巻く環境も変化しています。この国の長距離ランナーの強さの秘密は、自然環境や身体的特性、長年にわたり培われてきた生活様式や社会・経済システムが、近年のグローバル化の流れの中でプラスの方向(より多くの優秀なランナーを輩出する)へ作用したと考えられます。たとえば、最新の科学的知見を取り入れたトレーニングや、スポーツ産業界からの資金援助、スポーツを通して過熱するナショナリズムや民族・人種の自覚などが、ケニアで優秀な長距離ランナーを生む流れを加速しているとも言えるでしょう。

スポーツは、もちろん「する」のも「みる」のも楽しいですが、「語る」のも「考える」のも、また楽しみ方のひとつだと私は思います。Let's enjoy sports!

# 生命感のあふれる遊び

滋賀学習センター客員准教授 川中 大輔

私たちの社会は遊びをないがしろにしていないだろうか。「遊んでいる暇があったらすべきことを先にしなさい」、こういう台詞を耳にすることは多い。では、遊びは「すべきこと」ではないのだろうか。遊びは余裕がある時に許される、何かのご褒美のようなものだろうか。暇を埋め合わせる営みだろうか。そうではあるまい。遊びは生きることの基盤を成す営みの一つではないだろうか。

確かに遊びは何かを生み出すわけではない(カイヨワ1990:13-14)。遊ぶことはそれ自体が目的であって、何かの手段として行われるものではないからである。「△△のために□□の遊びをする／○○の効果があるから◇◇の遊び方を変える」となった瞬間に、それは遊びではなくなっている。山川均は1940年の東京オリンピック招致を批判して、スポーツの自体の価値は「無価値であるがゆえの明朗さ」にあると指摘している(阿部 2020:139-141)。遊びもまた同様である。例えば、教育的効果が強く意識されて「自己の優位性を高める舞台」と化せば、遊び(の場)は不明朗なものとなる。

遊ぶことが目的合理性から離れているからこそ、一人ひとりが「わたし」を自由に表現することとなる。段ボール箱に入ったプレゼントを受け取った子どもが遊びの価値を大きく見出すのは、プレゼント本体ではなく段ボール箱であるとシェリー・ニューステッド(2019:48-50)は述べている。殆どのおもちゃは特定の遊び方に方向づけられているが、段ボールはそうではないからである。子どもの想像力の豊かさを引き受けられる段ボールには、多様な遊びが引き出されていく可能性が広がっている。実際、筆者が活動していた NPO で子どもたちと段ボールハウスをつくることになった際、大人の想像を飛び越えた制作活動が長時間にわたって展開されることとなった。それらは「褒めてもらおう」とか「見栄を張ろう」といった思惑や、ましてや「こんなスキルを磨こう」といった考えから創り出されたものではない。子どもたちと段ボールとの戯れの中から浮かび上がったものであった。

これは一例に過ぎないが、「こんな風に身体を使ってみたら／手を動かしてみたら／考えてみたら、どうなるんだろう？」という“遊び心”で繰り広げられる自他の表現に、「おぉー、そんなことができるんだ！」と私たちは驚異する。この歓喜や興奮の中で生きていることを実感したり、生きるエネルギーが充足されたりする。ここに遊びの意義があるのではないだろうか。ある時には、傍から見れば「失敗」のような結果で終わることもあるだろう。ところが、当の本人は「楽しかった！」と言って帰ることは少なくない。プロセスで表現の試行錯誤を満喫しているからである。驚異／歓喜／興奮はプロセスの中で感じるものであることからすれば当然である。日本でプレーパーク(冒険遊び場)運動を牽引してきた天野秀昭は「プロセスを楽しむチャンスを子どもに返したい」と述べている(ワークショップ・ミュー編 1999:38)。成果重視／効率重視の思考では、遊びの世界／意義を捉えきることができない。

こうした遊びの場は実験場であり、工房であり、舞台にもなる空間である。それ故に騒々しくなることもあるし、物が散らかることもある。熱気を帯びることもある。時にはドキリ／ヒヤリとすることも出てくるだろう。こうした混沌を私たちの社会はどれほど許容しているだろうか。私たちの遊び場は管理的になり過ぎていないだろうか。岡本太郎(1968:73)は「生活のなかに生命感のあふれる遊びがない。それが現代の空虚さだ。」と指摘した。現在の私たちの遊びの多くは消費的であり、創造性／躍動性を発揮することが限られている。生命感のあふれる遊びがある生活を創造する営みを膨らませていかねばなるまい。

## 参考文献

- 阿部潔, 2020, 『東京オリンピックの社会学—危機と祝祭の 2020 JAPAN』 コモンズ.  
岡本太郎, 1968, 『原色の呪文』 文藝春秋.  
カイヨワ, ロジェ. (多田道太郎・塚崎幹夫訳), 1990, 『遊びと人間』 講談社.  
ニューステッド, シェリー. (嶋田仁志訳), 2019, 『プレイワーク きほんの「き」』 TOKYO PLAY.  
ワークショップ・ミュー編, 1999, 『「まなび」の時代へ—地球市民への学び・30人の現場』 小学館.

# 2022 年度 公開 講演会



## 第 1 回公開講演会 8月4日(木)

### 「教室での ICT 活用のためのはじめの一步～ iPad を使った表現活動～」

岳野 公人 教授 (滋賀大学教育学部)



iPad で T シャツのデザインを制作し、グループで共有するなど教育現場ですぐに使える活用方法を体験しました。スキルの獲得だけでなく、参加者一人一人のクリエイティブな発想が大いに触発されました。後半は、平井所長の進行でオーストラリアの小学校の先生であるケリー・ヴィンパーニさんと会場を Zoom でつなぎ、オーストラリアの学校 ICT 事情や教員の働き方などについて交流を行いました。お国事情の違いや意外な共通点に驚きながら、ICT 教育についてより広い視野を持つことができました。

## 第 2 回公開講演会 8月7日(日)

### 「多文化共生社会をつくる市民になるには」

川中 大輔 准教授 (龍谷大学社会学部)

多文化社会のジレンマ「掃除編」という演習では、学校の掃除を生徒がすることについて様々な見方があることを学びました。海外には生徒ではなく清掃員が掃除をする国が多く「掃除をする人の仕事を奪ってしまう」「児童労働だ!」という感覚には、参加者一同、カルチャーショックを受けました。その後、大学の学生で日系ブラジル人との交流活動に取り組む甲斐正信さん、滋賀県にお住いのベトナム人、ド・ティ・ビック・ガンさんをお招きし、川中先生がお二人のエピソードを引き出しながら和やかな雰囲気の中で鼎談が行われました。甲斐さんからは、ご自身の海外生活の体験も交えながら、マイノリティの重要性についてわかりやすくお話しいただきました。また、ガンさんからは幾多の苦労を経験されながらも「日本人と日本に学びたい」と前向きに生きてこられた体験を丁寧にお話しいただきました。私たちが抱える共生への厳しい現実と解決に向けた可能性が示されたひと時でした。



## 第 3 回公開講演会 8月27日(土)

### 「世界の食料問題と日本の食料安全保障」

本間 正義 東京大学名誉教授  
コメンテーター 嶋田 大作 龍谷大学農学部准教授

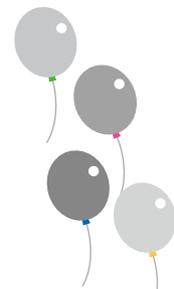


アジア成長研究所で教鞭をとられている本間正義東京大学名誉教授からご講演いただきました。ウクライナ危機と食料問題にも言及しながら、国内外で研究された豊富なデータは説得力があり、世界や日本のこれからの食糧問題、農業の課題や方策について示唆に富む内容でした。後半は嶋田大作龍谷大学農学部准教授から本間先生の講演に関わって、「農業問題：TPP 後、農政はこう変わる」と「社会的共通資本」の 2 冊について解説をしていただきました。視点の異なる 2 冊を分かりやすく説明いただいたことで、現在の日本の農業の問題点やこれからの農業施策について視野を広げることができました。質疑応答では、ベテランの農業従事者に交じり高校 2 年生が質問するなど、講演のテーマに対する関心の高さがうかがえました。

◎本間正義, 2014, 「農業問題：TPP 後、農政はこう変わる」ちくま新書

◎宇沢弘文, 2000, 「社会的共通資本」岩波新書

# かいつぶり 文化祭



11月6日(日)に学友会主催のかいつぶり文化祭が盛況の中、開催されました。三ツ石郁夫放送大学客員教授による講演会「ルール工業地域の歴史から見る現代世界」では、ドイツ・ルール地域の人々の生活と環境、娯楽のあり方が経済政策の流れの中でどのように変遷したのかが明らかにされました。現代の日本の状況への示唆に富む興味深い講演でした。午後は映画「最強の二人」を鑑賞し会員間の親睦と交流が深まった一日でした。

## 『滋賀県立図書館と放送大学滋賀学習センターの連携・協力に関する覚書』



令和4年9月22日、放送大学滋賀学習センター(以下:滋賀SCという)は滋賀県立図書館と連携・協力に関する覚書を締結しました。この覚書の趣旨は、「滋賀県民の生涯学習の推進ならびに相互の提供する学びの紹介・普及のために連携協力事業を行う」というものです。

取り組む事業としては、(1) 滋賀SCが放送大学の授業に関係する印刷教材を県立図書館に寄贈し、利用者の便宜を図ること、(2) それぞれが実施する企画展示や講演会などで連携協力すること、(3) それぞれが実施する広報や

啓発活動に関わって連携協力することなどが挙げられています。

早速、本年度の学部と大学院全課程分の印刷教材が、放送大学本部より滋賀SCを通して無償で県立図書館に寄贈されました。これらの図書は、自由に閲覧・貸し出しができます。

また、滋賀SCが今年度を実施する公開講演会などで、前年度に引き続き県立図書館が所蔵する関連図書の陳列をお願いする予定です。

その他にも、学生募集、公開講演会やセミナーの案内などの広報啓発活動で、コラボを進めて行きたいと考えています。

滋賀SCと滋賀県立図書館はお隣同士で、みなさまの中にもセンターの行き帰りなどに利用されている方もいらっしゃると思います。緑の公園の中を歩いて15分ほど、車では5分ほどの距離です。

今回の覚書に基づく取り組みが、みなさまの学びに少しでもお役にたてたら幸いです。



## 滋賀県立図書館で放送授業の教材を閲覧・貸出しができます

滋賀県立図書館は蔵書データベースへの登録や配架準備を進められ、2022年12月1日(木)より閲覧・貸出が可能となりました。

受講を検討されている放送授業等の下調べや予算等に是非ご活用ください。

滋賀県立図書館が遠く時間がかかる方は、お近くの公立図書館から閲覧・貸出を申し込むことができます。詳細は公立図書館にご確認・お問合せください。

なお、滋賀県立図書館の蔵書であるため放送大学学生だけでなく、学生以外の方も閲覧・貸出が可能です。このためご希望の印刷教材が貸出になっている場合もございます。悪しからずご了承ください。



## セミナー のご案内

所長・客員教員が開催する学びの場です。原則として滋賀学習センター所属の学生が参加できます。

以下の日程が変更になる場合は、滋賀学習センターウェブサイト及び掲示板でお知らせしますのでご注意ください。



### スポーツ文化論セミナー【世界のスポーツや身体活動から学ぶ】

平井 肇 所長

現代社会におけるスポーツの社会・文化的な意義と役割について、比較文化論と地域研究の視点から分析・考察します。スポーツ好きがスポーツについて気軽に語り合う場です。

1月 8日(日)10:15~11:45      2月19日(日)10:15~11:45



### 仏教文化圏の功德観と積徳行セミナー【地域間比較研究の視点から学ぶ】

兼重 努 先生

功德を積む行為を積徳行といいます。東南アジアの上座仏教文化圏と東アジアの大乗仏教文化圏では共に積徳行が盛んですが、相違もあります。両文化圏の功德観と積徳行について地域間比較研究の視点から紹介します。

1月10日(火)10:15~11:45



### ボランティア研究セミナー【社会貢献活動をどう捉えるか？】

川中 大輔 先生

市民の社会貢献活動は今どのような変化を見せているか。社会貢献活動は取り組む個人や企業に何をもちたらしめるのか。こうした問いについて理論的／実践的な動向を踏まえつつ、講究していきたい。

1月 6日(金)15:15~16:45      2月 9日(木)10:15~11:45  
3月15日(水)10:15~11:45



### 栄華物語を読むセミナー【女性の視点からみた平安時代史】

京楽 真帆子 先生

『栄華物語』は、平安時代約 200 年間の貴族社会の様子を、仮名を使って物語風に描いた歴史物語です。前半部分は、赤染衛門が執筆したと言われています。その物語を歴史学研究の立場から輪読していきましょう。

※ 1月～3月のセミナーはありません。



### 化学の基本から応用へセミナー【実験から学ぶ化学の基本と応用】

藤原 学 先生

化学の基本は「元素の周期表」ですが、これが出来上がるかなり前より化学の研究が盛んに行われ、いろいろな経験から知識が蓄積されてきました。いくつかの実験を通じて、化学の世界を楽しみましょう。

※ 1月～3月のセミナーはありません。



### ドイツ現代史セミナー【20世紀ドイツの歴史をたどる】

三ツ石 郁夫 先生

ドイツは 20 世紀において、帝政期とワイマール共和国、ナチ期や戦後分断国家などさまざまな時代を経験してきました。その歴史を政治と経済、思想を中心に振り返ります。講義と討論を織り交ぜて進めます。

1月10日(火)13:30～15:00      2月14日(火)13:30～15:00  
3月14日(火)13:30～15:00

## 【オンライン(Zoom)セミナー】



### 比較文化・地域研究セミナー【アジアの隣人と話そう】

平井 肇 所長

アジアやオセアニアの国々からオンラインでゲストを招き、それぞれの国の文化や生活について話し合っ相互理解を深めます。今年度は、こちらの参加者にも積極的に情報を発信していただく予定です。

1月 8日(日)13:30～15:00      2月19日(日)13:30～15:00



### 心理療法の基本セミナー【心理療法を俯瞰する】

荻田 純久 先生

心理療法に関しては、過去においても現在においてもさまざまな立場、理論、技法などが存在します。心理療法の未来はどうなるでしょうか。本セミナーでは、心理療法の基本について考えていきたいと思います。

1月 7日(土)13:30～15:00      2月25日(土)13:30～15:00  
3月11日(土)13:30～15:00



は **Zoom** によるオンライン開講です。以下のいずれかの方法で参加できます。

- ① 自宅でPCやタブレットから Zoom に接続する
- ② PCやタブレットを持参し滋賀学習センターで受講する(所長セミナーのみ)
- ③ 滋賀学習センターの大型モニターで受講する(定員5名・PC不要)

詳しくは放送大学滋賀学習センターウェブサイトをご覧ください。

# 事務室 からの お知らせ

図書・再視聴室の利用期間、通信指導の添削、単位認定試験、また今学期で卒業見込みの方、学籍が切れる方、次学期も学籍が続く方の、それぞれの手続きなどについてご案内します。

## 通信指導の添削結果について

添削結果の返送時期は 2022 年 12 月末～2023 年 1 月上旬です。

\* 択一式は 1 月 6 日、記述式は 1 月 16 日までに届かない場合は、大学本部に連絡してください。

※詳しくは、「学生生活の葉」 学部：64 頁～68 頁、修士・博士：63 頁～67 頁を参照ください。

## 単位認定試験について

2022 年度第 2 学期単位認定試験(2023 年 1 月実施)は、第 1 学期に引き続き Web 受験方式(一部科目は郵送受験方式)で実施します。

### 1. 実施方法概要

#### ■ Web 受験方式

○ 自宅などから、インターネットを通じて Web 単位認定システムにアクセスし、問題閲覧・解答提出を行います。

○ 科目ごとに「択一式」「記述式」「(択一式と記述式の)併用式」いずれかの形式で出題されます。

#### ■ 郵送受験方式

○ 1 月上旬ごろ大学本部から送られる問題用紙・解答用紙・提出用封筒を用いて、郵送で解答を提出します。\*「正多面体と素数(21)」、「日本美術史の近代とその外部(18)」、「量子化学(19)」のみ

2. 試験日程 Web 受験方式(試験期間)：2023 年 1 月 17 日(火) 9:00～1 月 25 日(水) 17:00

郵送受験方式(提出期間)：2023 年 1 月 17 日(火)～1 月 25 日(水)《必着》

### 3. 自宅等での Web 受験が困難な方へ

ご自宅等にインターネット環境がない、パソコン操作が困難等のご事情により自宅等での Web 受験が困難な方は、事前に申請を行うことで、学習センターで受験することができます。

詳細は、滋賀学習センターにお問合せください。

## 図書・再視聴室の利用について

■ 利用内容：○図書資料の閲覧 ○印刷教材の閲覧 ○放送教材の視聴

■ 利用時間：○通常 9:15～17:45 ○単位認定試験期間 9:00～18:45

■ 図書の閲覧：図書資料は、書架より自由に取り出して閲覧できます。

■ 図書の貸出・返却

2019 年 4 月から学習センターの図書貸出しは行っていません。貸出を希望する場合は、大学本部の附属図書館を利用ください。

※詳しくは「学生生活の葉」学部(109 頁)、大学院(100 頁)もしくは附属図書館のホームページ(<http://lib.ouj.ac.jp/>)でご確認ください。

※学習センター閉所日や開所時間外での大学本部の附属図書館の図書資料の返却は、4 号館 1 階玄関前に設置の返却ポストをご利用ください。開所中は「図書・再視聴室」へ返却してください。

■ 閉所日：○毎週月曜日・祝日

○年末年始 2022 年 12 月 29 日(木)～2023 年 1 月 3 日(火)

○臨時閉所日 2022 年 12 月 27 日(火)、12 月 28 日(水)、2023 年 1 月 4 日(水)

## 放送教材(DVD/CD)の室内視聴と放送教材の貸し出しについて

放送教材は、室内視聴が可能です。(登録科目以外の放送教材も視聴できます。)2020 年度以降(大学院は 2019 年度以降)の新規開設科目につきましては、放送教材(DVD/CD)の配架は行いません。配架中の放送教材は閉講になるまで視聴できます。インターネット視聴端末では全科目の視聴ができます。

※ 放送教材の貸出は、現在登録している科目及び再試験科目の放送教材を郵送にて大学本部からご自宅に取り寄せることができます。往復の送料は、貸出希望者の負担になります。

※ 詳しくは「学生生活の葉」学部：32 頁～35、大学院：44 頁～45 頁、「利用の手引き」11 頁～12 頁をご確認ください。

## 次学期にむけての手続きについて

**3月で学籍が切れる方** 学習を継続される方、再試験を受ける方は継続入学手続きをしてください。

- 申請期間 第1回(郵送)2月28日(火)まで ※本部私書箱必着  
(インターネット)2月28日(火)24:00まで
- 第2回(郵送)3月14日(火)まで ※本部私書箱必着  
(インターネット)3月14日(火)17:00まで

■ 提出物：学生募集要項出願票

- ※ 選科生、科目生から全科生へ入学する場合も、「学生募集要項出願票」で出願してください。
- ※ 新規に科目登録をせず、再試験のみを希望される場合は、「今回は再試験のためだけの出願である」に○を付けてください。

**次学期も学籍が続く方** 期間内に次学期の科目登録をしてください。

※「学生生活の葉」学部：58頁～61頁、大学院：56頁～62頁参照

■ 申請期間

- ◎システム WAKABA：2月13日(月)9:00～2月28日(火)24:00まで
- ◎郵送：2月13日(月)～2月27日(月) ※本部私書箱必着

■ 提出物：科目登録申請票

**今学期で卒業見込みの方** 学習を継続される方は以下の通り手続きをしてください。

※「学生生活の葉」学部：94頁～95頁、大学院：90頁参照

→学籍が続く方

①卒業となった場合の手続き ⇒ 継続入学手続き

- 申請期間 第1回(郵送)2月28日(火)まで ※本部私書箱必着  
(インターネット)2月28日(火)24:00まで
- 第2回(郵送)3月14日(火)まで ※本部私書箱必着  
(インターネット)3月14日(火)17:00まで

■ 提出物：学生募集要項出願票

②卒業とならない場合に備えての手続き ⇒ 科目登録

- 申請期間 ◎システム WAKABA：2月13日(月)9:00～2月28日(火)24:00まで
- ◎郵送：2月13日(月)～2月27日(月) ※本部私書箱必着

■ 提出物：科目登録申請票

→学籍が切れる方 ⇒ 継続入学手続き

- 申請期間 第1回(郵送)2月28日(火)まで ※本部私書箱必着  
(インターネット)2月28日(火)24:00まで
- 第2回(郵送)3月14日(火)まで ※本部私書箱必着  
(インターネット)3月14日(火)17:00まで

■ 提出物：学生募集要項出願票

卒業式・  
入学者の集い  
のご案内

2022年度 第2学期「卒業証書・学位記授与式」  
2023年3月26日(日)10時から

2023年度 第1学期「入学者のつどい」  
2023年3月26日(日)11時から

龍谷大学瀬田キャンパス、RECホール1階小ホール

※例年とは順序が入れ替わっておりますのでご注意ください。



## スケジュール

1 月		2 月		3 月	
日 曜	内 容	日 曜	内 容	日 曜	内 容
1 日	元日 年始閉所日(～1/3)	1 水		1 水	2023年度第1学期大学院修士選科・科目生、 教養学部第2回出願受付開始(～3/14)
2 月	閉所日	2 木		2 木	
3 火	閉所日	3 金		3 金	
4 水	臨時閉所日(冬季)	4 土	第5回公開講演会(兼重)	4 土	
5 木		5 日		5 日	
6 金	【セ】川中 15:15	6 月	閉所日	6 月	閉所日
7 土	【セ】荻田 13:30(オンライン) zoom Online	7 火		7 火	
8 日	【セ】平井 10:15 【セ】平井 13:30(オンライン) zoom Online	8 水		8 水	
9 月	閉所日(成人の日)	9 木	【セ】川中 10:15	9 木	
10 火	【セ】兼重 10:15 【セ】三ツ石 13:30	10 金		10 金	
11 水		11 土	閉所日(建国記念の日)	11 土	【セ】荻田 13:30(オンライン) zoom Online
12 木		12 日		12 日	
13 金		13 月	閉所日 2023年度第1学期科目登録申請(面接授業を含む) 受付開始(～2/27郵送、～2/28Web)	13 月	閉所日
14 土	面接授業	14 火	【セ】三ツ石 13:30	14 火	【セ】三ツ石 13:30
15 日	面接授業	15 水		15 水	【セ】川中 10:15
16 月	閉所日	16 木		16 木	
17 火	第2学期大学院・教養学部単位認定試験(Web方式)	17 金		17 金	
18 水	第2学期大学院・教養学部単位認定試験(Web方式)	18 土		18 土	
19 木	第2学期大学院・教養学部単位認定試験(Web方式)	19 日	【セ】平井 10:15 【セ】平井 13:30(オンライン) zoom Online	19 日	
20 金	第2学期放送授業終了 第2学期大学院・教養学部単位認定試験(Web方式)	20 月	閉所日	20 月	閉所日
21 土	冬期学習期間(=再放送等)開始(～3/31) 第2学期単位認定試験答案提出期限(Web方式)	21 火		21 火	閉所日(春分の日)
22 日	第2学期大学院・教養学部単位認定試験(Web方式)	22 水		22 水	
23 月	閉所日 第2学期大学院・教養学部単位認定試験(Web方式)	23 木	閉所日(天皇誕生日)	23 木	
24 火	第2学期大学院・教養学部単位認定試験(Web方式)	24 金		24 金	
25 水	第2学期大学院・教養学部単位認定試験(Web方式)	25 土	【セ】荻田 13:30(オンライン) zoom Online	25 土	図書・放送教材等整理のため再視聴室閉室 (～3/31)
26 木		26 日		26 日	卒業証書・学位記授与式、入学者の集い
27 金		27 月	閉所日 2023年第1学期科目登録申請受付期限【郵送】	27 月	閉所日
28 土	第4回公開講演会(石原)	28 火	第2学期オンライン授業閲覧終了 2023年度第1学期大学院修士選科・科目生、 教養学部第1回出願終了	28 火	
29 日		29 水	2023年度第1学期科目登録申請受付期限【Web】	29 水	
30 月	閉所日			30 木	
31 火	体育実技単位認定申請期間			31 金	冬期学習期間(再放送等)終了